

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第55号 〔2013年8,9月合併号〕

メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第55号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次>

平成25年度 活動報告会を開催します

グローバルフェスタのボランティア募集

メソトマンスリー

国内から

- ・ 食とふるさと

国際保健医療協力のなかで (22)

今月の一枚

編集後記

次号の予定



平成25年度 活動報告会を開催します

平成25年度 活動報告会を下記の要領により開催いたします。
賛助会員以外の方にも公開しておりますので、お知り合いの方も是非お誘い合わせの上ご参加ください。

1. 日時

平成25年9月8日(日) 13:30~17:00 (13:00 開場)
・報告会 13:30~16:00
・懇親会 16:10~17:00

2. 場所

林野会館 6階 会議室603
〒112-0012 東京都文京区大塚3丁目28番7号

<交通アクセス>

- ・地下鉄丸ノ内線「茗荷谷」駅下車徒歩7分
- ・地下鉄丸ノ内線「新大塚」駅下車徒歩10分
- ・都バス「千石三丁目」下車徒歩1分
- ・山手線「大塚」駅下車(南口)徒歩20分
- ・有楽町線「護国寺」駅(3番出口)下車徒歩12分
- ・地下鉄三田線「千石」駅(A4出口)下車徒歩12分

<地図> <http://rinyakaikan.or.jp/access/index.html>

3. 内容

*年次活動報告 事業・会計報告

*現地活動報告

①「タイ社会の中で -ビルマ移民学校、平和と友好の音楽交流会-」

当会は学校保健の活動に取り組んでいます。

今回は、現地スタッフの田畑看護師より学校保健部門での現地活動、移民学校の現状などについてご報告します。

②「変わり行くビルマと国境の人々」

現在、現地派遣員としてメータオ・クリニックで活動している前川由佳看護師が2年間にわたる活動をご報告するとともに、ミャンマー/ビルマの民主化から現在に至るまでのタイ・ミャンマー/ビルマ国境とメータオ・クリニックの様子をお伝えします。

4. 定員 先着60名

5. 参加費 500円(資料代、懇親会費含む)

6. 申込み

参加ご希望の方は、

(1)氏名 (2)住所 (3)所属 (4)電話番号 (5)パソコンメールからの連絡がつくメールアドレス (6)賛助会員の有無 をご記入のうえ、前日までにメールでご連絡ください。



メールタイトルは「活動報告会申込み」とご記入をお願いいたします。

申し込み、問い合わせ先： support@japanmaetao.org 担当：淵上

皆様のご参加をお待ちしております。

グローバルフェスタのボランティア募集

グローバルフェスタ JAPAN2013 に出展します！ 一緒にお手伝いをしてくださるボランティアを募集しています！！

10/5(土)~6(日)10:00-17:00 日比谷公園にてグローバルフェスタが開催されます。
メータオ・クリニック支援の会も昨年に引き続き出展の機会をいただきました。

【出展内容(メータオ・クリニック支援の会)】

タイ・ミャンマー国境付近の移民・難民の数は、ミャンマー国内の民主化が進んでも減少にはありません。そのような現状のタイ・ミャンマー国境付近の医療状況、メータオ・クリニックの設立経緯・概要、当会の活動報告(院内感染対策・学校保健支援の取り組み)をパネル展示致します。ミャンマーの少数民族の民芸品販売も実施します。

☆☆ ボランティア募集のご案内 ☆☆

メータオ・クリニック、タイ・ミャンマー国境付近の医療状況にご関心がある方から、国際協力・NGOの活動に興味があるけど何から始めたらよいかわからないという方(医療従事者以外の方も大募集！)、そしてJAMの活動に賛同して下さり、皆で楽しくメータオ・クリニック支援の会のブースを盛り上げてくださる方を募集しています。

グローバルフェスタは2日間ありますが、お時間は調整します。

具体的にお手伝いをお願いしたい内容は、テント張り、テントたたみ、民芸品販売の商品の陳列、販売(店番のお手伝い)、通りがかった方々へのチラシ配りです。

ご興味がある方は、直接スタッフにお声をかけて頂くか、(1)氏名 (2)住所 (3)所属 (4)電話番号 (5)パソコンメールからの連絡がつくメールアドレス (6)5日、6日の参加可能日時をご記入の上、

当会アドレス“support@japanmaetao.org”(担当:白壁)までお送りください。

メールタイトルは「グローバルフェスタボランティア申込み」とご記入をお願いいたします。



グローバルフェスタ JAPAN2013のご案内(<http://www.gfjapan.com/>)

◆グローバルフェスタJAPAN2013概要◆	
<イベント名>	グローバルフェスタJAPAN2013
<開催日>	2013年10月5日(土)・6日(日)
<開催場所>	日比谷公園(噴水広場・にれの木広場・野外小音楽堂・第二花壇等)東京都千代田区日比谷公園1-6
<入場料>	無料
<主催>	グローバルフェスタJAPAN2013実行委員会
<共催>	外務省・独立行政法人国際協力機構(JICA)・(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)
<後援> (予定)	内閣府・総務省・財務省・文部科学省・厚生労働省・農林水産省・経済産業省・国土交通省・環境省・一般社団法人日本経済団体連合会・千代田区・日本国際連合協会東京本部
<お問合せ>	グローバルフェスタJAPAN2013実行委員会事務局 TEL: 03-5434-8766 / FAX: 050-3737-1565-03-5434-8686 / Email: gfj2013@jtbcom.com

メソトマンスリー



【メソト=前川 由佳、田畑 彩生】

壁画を描こう！

Happy Mural Healthy School 企画、始まりました。(Mural;壁画)

2011年に建てた HOPE 学校の校舎。
2年が経ち、そろそろ壁の汚れが目立ってきました。

せっかく白地の壁だし、塗りなおすだけじゃもったいない…大きなキャンバスとして子どもたちと絵を描いて…描くなら学校保健に関わるデザインも入れたいね。
鮮やかな外壁が健康へのメッセージにもなるように、それがこの企画のコンセプトです。

でも、難しいことは、いろいろ抜きにして、ひとまずめっちゃくちゃ楽しいっ!!!



初めて壁に絵を描いたんだ、楽しくって、とっても幸せ！



学校の先生やお医者さん以外ほとんど聞いたことのなかった子どもたちの夢に新しい世界が加わりました。

「夢はね、画家になることだよ。」



小さな画家たちによる最高の作品が出来上がりました。

スタッフのゆめ

今月は、エトーさん31歳、カイン州ドナ7地域の出身です。

11歳になる時に、学校での勉強を続けたくて、家族に願いましたが、お金も山奥の村には中学校も無く夢は叶わず。一時期は母と一緒に畑の手伝いをしていました。でも、学校で学



びたい思いは募り、村へやって来たお坊さんと村の仲間たちと一緒に、尼になってヤンゴンへ行き、勉強を続ける道を選びました。ミャンマー・ビルマの山岳地帯の村々出身で、勉強を続けたい人々の多くは、小僧や尼になって勉強を続けると言う事が多いのが20年前の現状でした。地域保健部門のソータンルイン先生とは同じお寺の出身です。村から来て一緒にお寺で学んだ10人の尼仲間のうち、3人はメータオ・クリニック働き、残りの4人はアメリカ・カナダへ第三国定住をし、2人は、バンコクに出稼ぎに行きました。残りの1人は結婚をして村へ帰って行きました。

ヤンゴンの高校を卒業後、パアンの地域で教育とマネジメントの学習をしていましたが、父が亡くなり一時期、村で保育士として働いていました。それでも、やはり勉強を続けたい思いは消えず、でも、大学へ行くお金はなかったので、メータオ・クリニックの提供している助産のコースで助産師としての勉強を始めました。その頃、シンシア先生に出会い、彼女と働くに強く心に決めました。

メータオ・クリニックで8年以上、助産師として働きました。今は、地域母子健康対策・生殖医療対策の担当として働いています。今のメータオ・クリニックの私の役割を代わって担当出来る人材がいなく、メータオ・クリニックの医療従事者も昨年の資金難で減少してしまったので、「今、私が辞めるわけにはいかない」と思い、頑張っています。

将来は、タイのタマサート大学で公衆衛生を学びたいと考えています。

「ある人は、お金の為だけに働きますが、シンシア先生は違います。村や地域の事を想い、愛している。私は、その心が好きです。」

今は、自分の村の伝統的産婆さんの再教育のプロジェクトを計画し、実施しています。自分の村は、今でも素手で赤ん坊をとり、竹の竿でへその緒を切ると言う昔ながらの方法で、自宅で出産をとることも多いです。なので、手洗いや手袋の使い方、へその緒の処理の仕方などの感染予防の管理から、生殖医療・家族計画の知識を含めて伝統的産婆さんを継続的に再トレーニングしたいと考えています。5月にも村に行って来ましたが、まだまだ基本的な助産のトレーニングを必要と感じています。赤ちゃんが感染症から守られる様な予防薬やお母さんが安全に衛生的に出産出来る基本的な医療材料が村には無いので、リュックに背負って村々を回ります。

「大変だけれど、自分の産まれたドナの地域の全ての村々で伝統的産婆のトレーニングが実施出来ること、これが私の今の夢です。」



国内から

食とふるさと

【東京＝荒木 麻由】

暑い夏ですね。皆様お元気でお過ごしでしょうか。

食欲が落ち、ついそうめんやお蕎麦ばかり食べてしまいますが、タンパク質やビタミンもしっかり摂られますように。

夏バテ予防には豚肉が良いそうなので、行ったことのないビルマ/ミャンマーを夢想しながら、夜中に見よう見まねでビルマ風豚肉のカレー炒めを作ってみました。多めのサラダ油に、豚肉、カレー粉、トマト、玉ねぎ、ネギ、塩こしょう。見た目はまあまあ。しかし、本来の味がわからない。中華料理とタイ料理と、バングラディッシュとパキスタンカレーを足して混ぜた、かなり奔放なイメージなのですが、いったいこれで合っているのか？どこに照準を合わせたらいいかかわからないうちにどんどん味が濃くなり、夏バテが治っても高血圧になっちゃうよ！という仕上がりに…。急遽お野菜を加え、ごはんをアメリカンにして、なんとかおいしく頂きました。

旅先では、必ずその土地の食べ物を食べて過ごします。そうすると、言葉がわからなくても、なんだか体の中から場に溶け込めるような気がするのです。身振り手振りで注文して、予想外のもが出てきちゃった時の面白さ、これも醍醐味です。

今までに、「ものすごい大きさの串焼き（一人であれをたべるのか？と注目の的）」「蜂蜜ソースで蜂にたかられる」「ラーメンの麺無し」「チーズの丸ごとフライにクランベリージャム（魚のフライを頼んだはず…）」「虫」「練乳たっぷりのクレープで蟻にたかられる」果ては「何かわからない」などの楽しい思い出がたくさんあります。

偶然とても美味しいものに出会えることもあるのですが、残念ながらもう一度それを注文するのは至難の業。一期一会なのです。

割と何でも食べられる私ですが、長期間海外暮らしをしたときは、やはり手に入る食材を工夫して、和風な料理を作っていました。思えば、人の味覚は育った土地に大きく影響を受けているように思います。

北海道育ちの私は、当たり前で有難くもなかったホッケの開きやジャガイモが、今では懐かしくてなりません。関東でも手に入るのですが、なんとというか、どうも一味違うのです。今では日本でも広く手に入るパクチーや空芯菜。便利な時代ですが、東南アジアで食べると香りや風味が全然違う気がします。土地の強さ、緑の濃さ。その土地の気候や環境、調味料や料理の腕がそう感じさせるのかもしれませんが、食材自体もきっと何かが違うのでしょうか。北海道で山に自生するアイヌねぎ（行者にんにく）を、庭で育てると年々香りが失われていくそうです。

しょっぱい豚肉のカレー炒めをほおぼりながら、マウンマウンティン氏が展覧会で「ふるさとに帰りたい」と言ったのを思い出しました。彼はそこで何を食べて育ったのだろう、と。ビルマ/ミャンマーの中でも、きっと地域によって少しずつ「ふるさとの味」が違うのかな。だとしたら、メータオクリニックに暮らす人たちは、少しずつあちこちの味を持ち寄っているのかもしれない。同じ料理は食べられるかもしれない。新しい味も生まれるかもしれない。それでもきっと、ふるさとの味を恋しく思ったりするんじゃないかな…私がホッケやジ



ヤガイモを懐かしく思うように。子供たちが食べているのは、メソトの野菜で作られたあたらしい「ふるさとの味」なのではないでしょうか。そんなことを徒然考えながら、いつかメソトかビルマ/ミャンマーに行ったら、きっと豚肉のカレー炒めを探して食べてみよう、心に決めた夜でした。

国際保健医療協力のなかで (22)

【東京＝小林 潤】



沖縄の母校に戻って3か月が過ぎた。

「コザ（沖縄市の旧称）で幼児二人が全裸で夜、徘徊していて保護されました」というショッキングな情報が入った。1990年代までは東南アジアでも頻繁にみられたことだが現在では都市ではあまりみられなくなっている。沖縄ではこれは氷山の一角が見えたに過ぎない。

那覇空港ターミナルは、東南アジアの小国よりはるかに大きく、発着の飛行機は分刻み、空港からはモノレールも動いている。30年前、学生のおときにはショッピングセンターといえれば那覇市の三越とダイナハだけだった。今や、ジャスコ、イオン、サンエーといった巨大ショッピングセンターが小さな島の各地にみられる。ムーンビーチホテル、万座ビーチホテルだけだったのが、今や大きなビーチリゾートホテルの数は少なくとも30はあるだろう。

しかし、この発展の陰にある「貧困」による社会的弱者の問題は未だに解決していない。失業率は本土の約2倍。離婚率は高率である。母子家庭を支える女性が夜のサービス産業に従事している。これら女性が働く飲食店は九州全体の数と同じ数が沖縄県にあるといわれている。母親に保護されるべき年齢の子供の多くが、最も保護されるべき時間に野放しになっているのだ。

夜に預けられる保育所の設置、皆さんは考えたことがあるだろうか。

働く女性のイメージは、男性と対等に働くキャリアウーマンの姿だ。これらの女性は主張する方法もよく知っており、その声は行政に大きな影響力をもっているだろう。一方、夜のサービス産業につく女性の声はいったいどのぐらいの人が耳を傾けるのだろうか。またこれらの人は声をあげる方法を知っているのだろうか。

難民の子供・女性の人権、後発途上国の貧困僻地で劣悪な健康状態の子供達、これらを改善すべき仕事をしてきた。沖縄の類似した状況は多いと考えている。

沖縄県内でこれらの問題に立ち向かってきた前児童福祉相談所の所長の先生にお話を聞くことができた。「この大きな問題を研究し政策策定につなげている研究者は皆無です」と。



今月の一枚



7月29日から降り出した雨。街中が川に変わっていて濁流でした。水の流れは見た目以上に強いですね。

写真は街中の様子です。

町の中心部の道は川となり車以外での移動は困難になりました。

水の流れにも勢いがあり、強い場所では通行止めやレスキューが歩行者を誘導していたところもありました。

クリニックの敷地のほとんどが水没し、稼働できなくなり、入院病棟も浸水、トイレの使用も困難となったのでメータオクリニックも7月30日の夕方、全患者をCDC学校へ一時避難しました。そのあいだは分娩も教室で行いました。

編集後記

8月はスタディツアー、9月は活動報告会、10月はグローバルフェスタと最近のJAMは予定が満載です。

でも、9月の活動報告会・・・実はまだ8月上旬の時点で5人ほどしかお申し込みがありません。(定員60名の部屋を借りているのに・・・)

そして、9月の活動報告会には、現地スタッフも一時帰国しますが、10月のグローバルフェスタには帰国しません。日本事務局ががんばりますが特に力仕事の部分で人手がほしいと思っています。力仕事で一番大変なのはテントの折りたたみ。わたし、背が届きません。。。普段、東京にいない方でも、たまたま東京に来る予定がある方もぜひ、30分でもいいのでぜひお立ち寄りいただければうれしいです。



